

私とロータリー

寄稿

早いもので、ロータリークラブに入会して、25年になります。入会目的は、地域を代表する人たちと親しくなり、その人たちの生きざまを学ぶ事でありましたが、この目的は達成されました。影響を受け考え方が変わった事も多くあり、現在でも年齢をこえた付き合い

半田ロータリークラブ
2008—09年度会長

山内 和之



ロータリーの奉仕を考える

を楽しんでいます。こが、この奉仕を私利私欲た。しかし、善意の人た。ロータリー活動が、国々は、ロータリーの大をぬきにして、知恵を出ちによる、友情を深め相や人種、宗教を超えて世きな魅力だと思いまし、汗を出し、金銭も出 互扶助する事は、会員と 界中に急速に広まってきす。す事だと考えていましなれば、自然に身につき、たのも当然といえるでしさて、ロータリーはた。単に他人に施すならまじめに良い仕事をする よう。しかし、急拡大は、奉仕団体でありますば、慈善すなわちチャリ 事、これが職業奉仕であさまざまな意見を生み、

奉仕の解
釈も多様
となつて
きまし

ティードだと思つた訳でるわけですが、長く社会た。創始者であるポールに信用され、尊重される ハリスは現在のようなあ 従つて、クラブ奉仕、 ための最も大切な事を教りかたを、望んだのだから、職業奉仕と言われるもの えてくれている事が、今うか。と疑問に感ずる事は、何だろつと入会する 思うとよく理解できま もあります。前は理解できませんでしす。